



活発な意見交換

News 04 組合員の意思反映に向けて 地区本部運営委員会代表者会議開く

JAは9月7日、令和8年度第1回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。

会議では、会長に村松孝規さん(富士地区)を再任し、新たに副会長に小林泰博さん(三島函南地区)、日吉弥雄さん(あいら伊豆地区)を選任しました。その他、営農経済センターの品目別拠点化体制への再編成についての報告や各地区から寄せられた意見への各事業の対応などを検討しました。



最優秀賞に選ばれた久高さん(右)

News 06 静岡県JA青壮年部 発表大会で受賞 富士宮・久高さんが最優秀賞、 伊豆太陽・江口さんが優秀賞

7月31日に静岡市で開かれた「第75回静岡県JA青壮年部組織活動実績・青年の主張発表大会」の組織活動実績の部で、青壮年部富士宮地区本部の久高拓馬さんが最優秀賞、伊豆太陽地区本部の江口拓也さんが優秀賞を受賞しました。

久高さんは「実現できる未来を願って」と題し、ファーマーズ出荷者や女性部、社会福祉協議会と連携して行う「SDGsフードサイクルコミュニティ事業」について力強く発表。11月の東海北陸青年大会に県代表として出場します。

News 03 持続可能な農業の実現へ 4市町へ政策要望書を提出



村田市長(右)へ要望書を手渡す石井組合長(左)

石井正昭組合長らJA役職員は7月28日、裾野市の村田悠市長と長泉町の池田修町長を訪問し、令和9年度の農業振興対策や農業予算の拡充などを盛り込んだ政策要望書を提出しました。

要望書は生産部会などと意見交換し、現場の声を反映した内容で、燃料費・ナフサ価格高騰に伴う農業経営支援、荒廃農地管理対策の強化を新たに求めました。8月18日には沼津市・清水町の首長へ提出しました。

News 05 剣道大会の副賞に 地元米を提供 青少年の健全育成に賛同

第14回富士山杯争奪少年少女剣道大会が8月23日に御殿場市で行われました。JAは同大会に後援し、副賞として特産「ごてんばこしひかり」の最上級米「このはなの恵み」を提供。表彰式で芹沢和彦常務が入賞チームに目録を贈呈しました。

9月13日には大会の様子を紹介した番組が静岡第一テレビで放送され、JAのCMも放送されました。



「このはなの恵み」を入賞チームに贈呈



全農乾椎茸品評会で
農林水産大臣賞を受賞した小柳出さん



全国乾椎茸品評会で
農林水産大臣賞を受賞した朝香さん

News 01 管内生産者が多数入賞 全国・県の品評会や関東の共励会で各賞を受賞

5月から8月にかけて、シイタケや生乳などの品評会・表彰式が行われ、管内の生産者の皆さまが多数入賞されました。

敬称略、() かつこ内は地区名

- 第59回全農乾椎茸品評会
農林水産大臣賞：小柳出 勝(伊豆の国)
- 第73回全国乾椎茸品評会
農林水産大臣賞：朝香 博典(伊豆の国)
林野庁長官賞：山口 孝夫(伊豆の国)
- 第54回日椎連乾椎茸箱物品評会
林野庁長官賞：石井 隆一(伊豆の国)・
三枝 廣次(伊豆の国)・萩原 和利(伊豆の国)・
堀江 富男(伊豆の国)

- 第75回静岡県乾しいたけ品評会
林野庁長官賞：朝香 博典(伊豆の国)・桑名 二郎(伊豆の国)
静岡県知事賞：石井 隆一(伊豆の国)・勝又 浩之(伊豆の国)・森野 智(伊豆の国)
- 第18回関東生乳品質改善共励会
最優秀賞・全酪連会長賞・連続賞：渡邊 謹一(伊豆の国)
優良賞：石渡 哲郎(三島函南)・赤池 昭悟(富士宮)
- 第25回静岡県なし果実品評会 銀賞：植松 俊介(富士)



生産者約4,000人へ配布した生産記録日誌



安全・安心な生産の徹底に向け熱心に受講する参加者

News 02 食の安全・安心の 取り組み強化へ 全地区で講習会を開き、 「生産記録日誌」を配布

JAは本年度、安全・安心な農産物を出荷し、消費者から信頼される産地づくりを進めることを目的に、食の安全・安心の取り組み強化に努めています。

7月から8月には、農産物を出荷しているファーマーズ出荷会員と産直市・朝市会員を対象に、全地区で「食の安全・安心講習会」を開きました。(株)つくば分析センターの張替龍貴さんを講師に招き、農薬の適正使用や正しい保管・整理方法、使用器具の洗浄の重要性について学びました。

併せて、農作業や栽培管理を正確に記録し、営農の振り返りや改善に役立ててもらおうと「3年連続生産記録日誌」を新たに制作し、受講者へ配布しました。日々の作業記録欄と営農情報を一冊にまとめ、作業内容だけでなく、肥料・農薬の使用状況、生育変化などを記録できる他、農産物と作業者の安全・衛生管理に関する情報なども掲載されています。



JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。
★各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

旬のお知らせは
他にもたくさん！
YouTubeでチェック





職員との意見交換会で自分たちの強みを出し合う部員たち

News 12 女性部員の「やりたい」を形に 「主体的」な活動へ 意見交換などを実施

女性部伊豆太陽地区本部は本年度、「受け身」の活動から一歩踏み出して部員たちが「主体的」に自己啓発や地域社会に貢献する活動を企画し、取り組む改革を進めています。

その一環として7月23日、女性部員と職員が意見交換会を実施。従来の質疑応答形式を一新し、「私たちができること、やりたいこと」をテーマに、地域活性化に向けた活動や講座の開催など活発な議論を交わしました。



空気を抜きながらみそ玉を作る生徒

News 14 五感を使って楽しく学ぶ 女性部と一緒に中学生がみそ造りに挑戦

女性部富士地区本部伝法支部は、富士市立吉原第一中学校を訪れ、支援学級の生徒約20人を対象にみそ造り体験を開きました。生徒たちは蒸した米の湯気や香りに歓声を上げ、米こうじや大豆の感触を確かめながら、部員に教わりみそ造りの工程を学びました。

白島美枝支部長は「食への感謝を学び、協力して作り上げる喜びを感じてほしい」と話しました。

News 11 正組合員宅へ野菜苗を配布 「野菜づくり運動」できっかけ作り

御殿場地区では、正組合員宅へ野菜苗を配布する「野菜づくり運動」を実施しています。

同運動は、組合員が多様な野菜栽培を始めるきっかけやファーマーズ御殿場への出荷促進、地産地消などを目的に平成21年から行っています。野菜苗の播種から配布までを全て御殿場地区の職員が行い、本年度は8月に正組合員宅約3,700戸へ配布しました。



キャベツとブロッコリーの苗を4本ずつ配布

News 13 収穫体験ツアーが大好評 「箱根西麓三島野菜」の魅力を発信

三島函南地区営農販売課は7月18日、全国農協観光協会と連携し、県外からの誘客と新たな収益構造の構築化を目的に、収穫体験ツアーを開きました。

全国農協観光協会会員23人が参加。旬を迎えた「三島とうもろこし」と「ヤマツ葉しょうが」の収穫や試食を通じて、生産現場や地域の食文化に触れました。



生産者(奥)が「ヤマツ葉しょうが」などの特長を説明



長さ約50mの遮根シートを土の中に敷設

News 08 ミニトマトの 土壌病害軽減へ 遮根シート導入し効果を検証

青壮年部伊豆の国地区本部北支部ハウス部会は本年度、あぐりチャレンジ事業の補助金を活用し、遮根シート(ルートラップシート)を用いた土耕栽培に取り組んでいます。

シートで根域を制限・隔離して土壌病原菌の侵入を防ぐ方法で、導入コストを抑えつつ生産性向上を目指します。7～8月に3軒のハウスに設置。今後、効果を検証していきます。



鈴木大臣(中央右)に献上を報告する生産者ら

News 10 「伊豆レモン」の高品質化へ 伊豆レモン協議会熱海地区が整枝講習会

当JAブランド「伊豆レモン」が10月から出荷の時期を迎えます。伊豆レモン協議会熱海地区では7月27日、品質向上と栽培・収穫時の安全性確保を目的に整枝講習会を開き、生産者8人が参加しました。柑橘のトップ営農指導員が講師を務め、生育確認や誘引、剪定を実演で学びました。

伊豆レモンは48人が栽培し、今期は12トンの出荷を目指します。

News 07 「西浦みかん」前掛けでPR 青壮年部が地元企業と共創

青壮年部なんすん地区本部西浦支部は7月から、特産「西浦みかん」や同青壮年部をPRする前掛け制作プロジェクトを始動しました。

国内デニム製品発祥企業として知られる清水町の山本被服(株)と共創。年内の完成を目指し、来年2月のミカン販売イベントで初披露します。



仕様などを話し合う青壮年部員ら

News 09 富士宮産有機栽培茶を皇室へ 農林水産大臣にも献上を報告

富士宮市で本年、献上茶謹製事業が平成21年以来17年ぶりに執り行われ、皇室へ献上しました。

生産者の鈴木英光さん、松田正文さんをはじめ、静岡県茶手揉保存会やJA関係者が、手揉みで丁寧に仕上げた有機栽培茶を献上。さらに、鈴木憲和農林水産大臣を表敬訪問して献上を報告し、茶や地域特産品をPRしました。

トップ営農指導員の実演による講習会

